

## 7 市民の防災意識について

### 7-1 川崎市の災害情報の入手手段

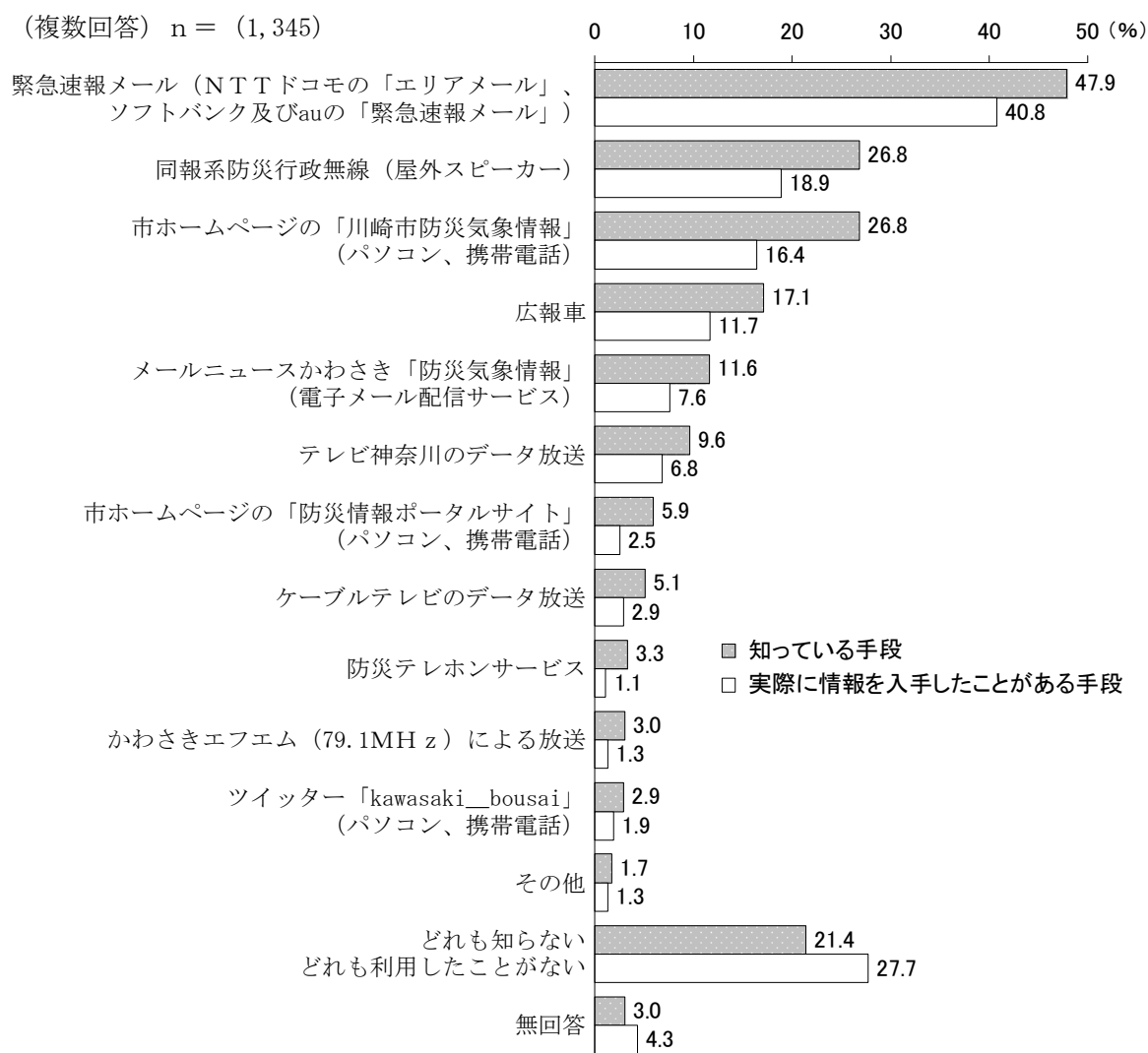
◎「緊急速報メール（NTTドコモの『エリアメール』、ソフトバンク及びauの『緊急速報メール』）」を知っている人が47.9%、実際に入手したことがある人は40.8%

問18 本市では、災害に関する情報を様々な手段を用いて提供しています。

(1) あなたは、次の手段で提供していることを知っていますか。(あてはまるもの全てに○)

(2) あなたは、どの手段で情報を入手したことがありますか。(あてはまるもの全てに○)

図表7-1 川崎市の災害情報の入手手段

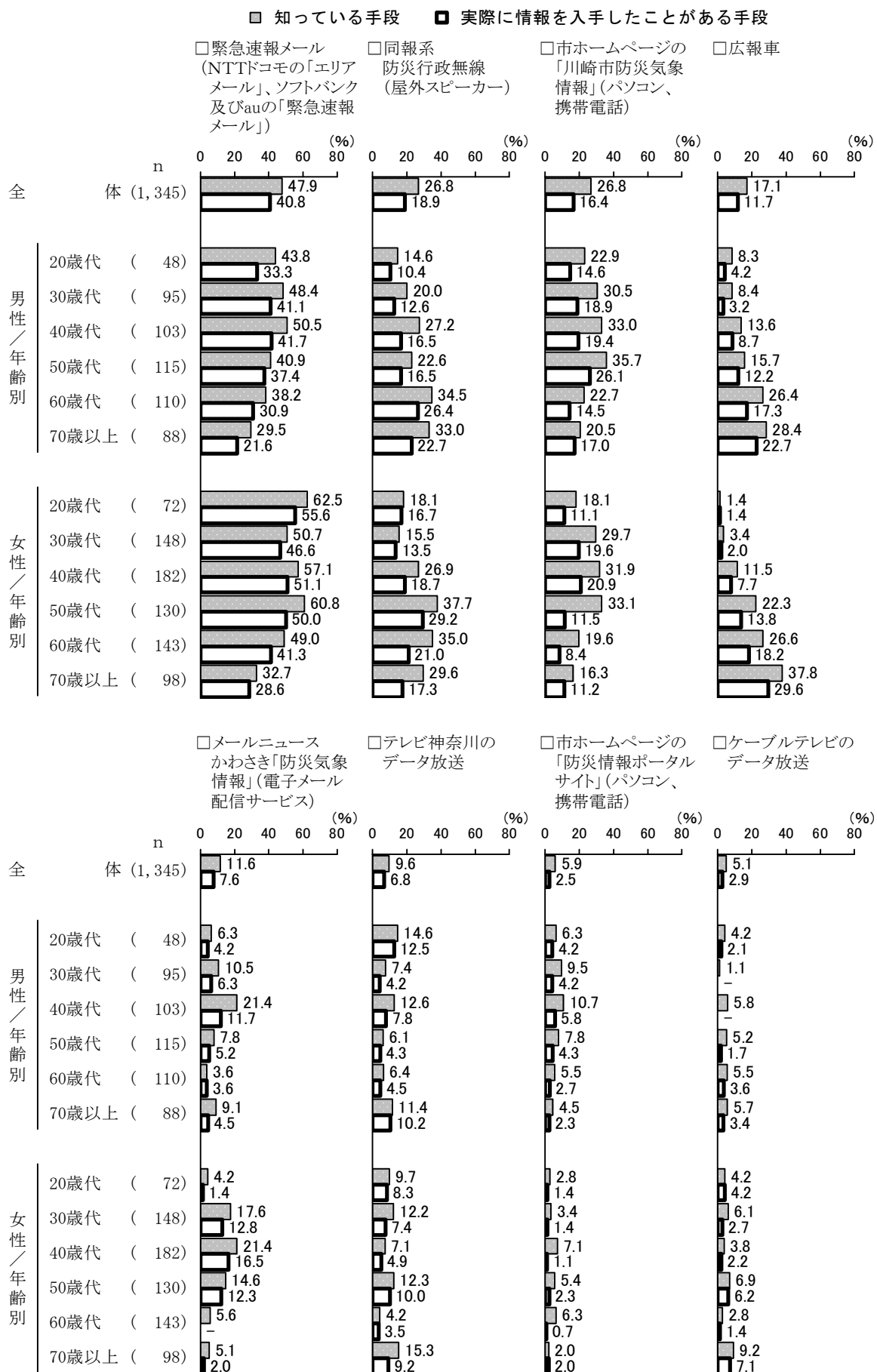


(第2回アンケート)

川崎市からの災害に関する情報の入手手段のうち、知っている手段は、「緊急速報メール（NTTドコモの『エリアメール』、ソフトバンク及びauの『緊急速報メール』）」(47.9%)が最も多く、次いで「同報系防災行政無線（屋外スピーカー）」と「市ホームページの『川崎市防災気象情報』（パソコン、携帯電話）」(ともに26.8%)、「広報車」(17.1%)の順となっています。

実際に情報を入手したことがある手段は、「緊急速報メール（NTTドコモの『エリアメール』、ソフトバンク及びauの『緊急速報メール』）」(40.8%)が最も多く、次いで「同報系防災行政無線（屋外スピーカー）」(18.9%)、「市ホームページの『川崎市防災気象情報』（パソコン、携帯電話）」(16.4%)、「広報車」(11.7%)の順となっています。

図表7-2 川崎市の災害情報の入手手段（性／年齢別、上位8項目）

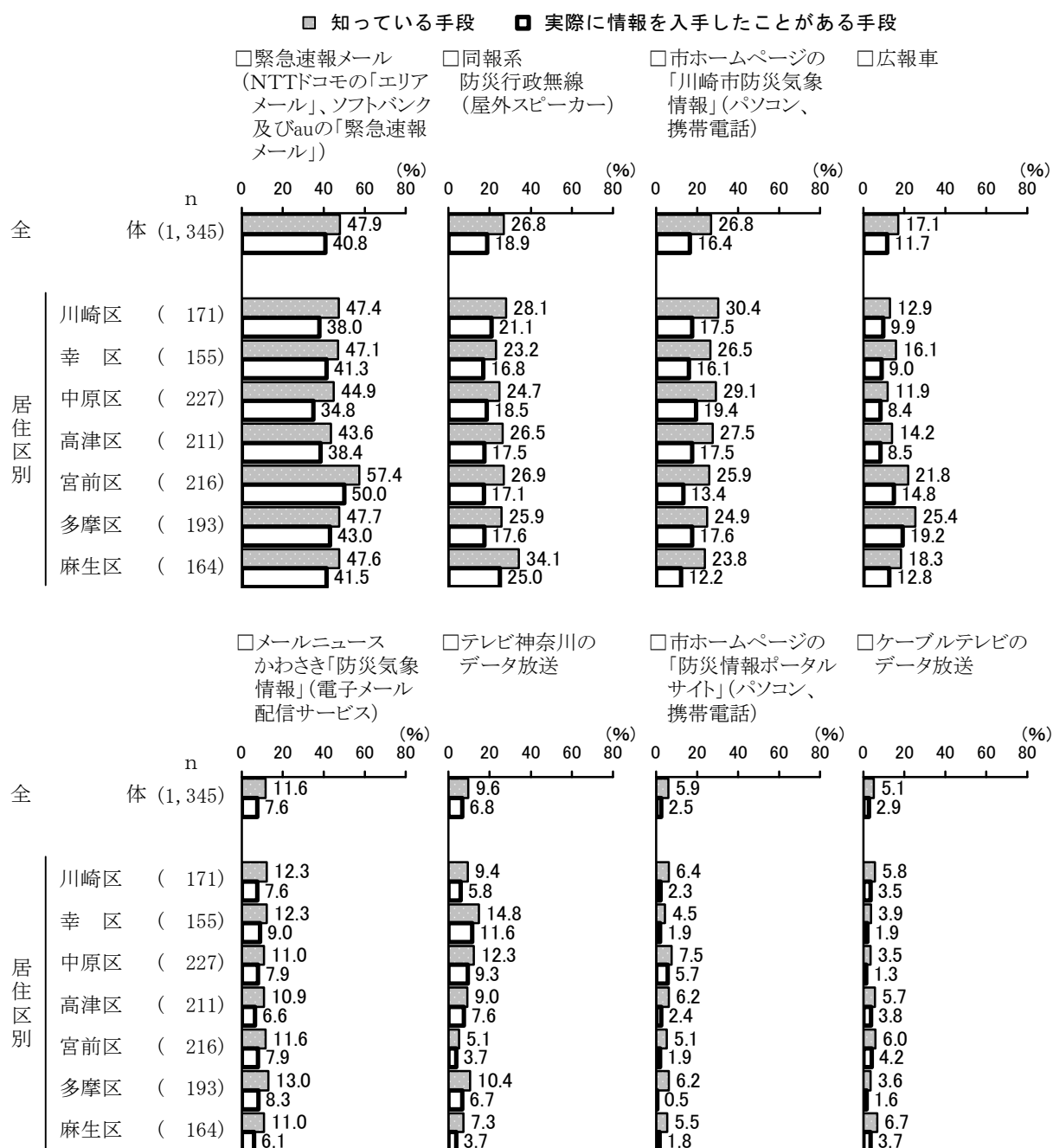


(第2回アンケート)

知っている手段を性／年齢別でみると、「緊急速報メール（NTTドコモの『エリアメール』、ソフトバンク及びauの『緊急速報メール』）」は、女性の20歳代（62.5%）、50歳代（60.8%）の順で多くなっています。「同報系防災行政無線（屋外スピーカー）」は、女性の50歳代（37.7%）で多くなっています。「広報車」は、男女ともに高い年代ほど多くなる傾向で、特に女性の70歳以上（37.8%）で多くなっています。

実際に情報を入手したことがある手段を性／年齢別でみると、「緊急速報メール（NTTドコモの『エリアメール』、ソフトバンク及びauの『緊急速報メール』）」は、女性の20歳代（55.6%）、40歳代（51.1%）、50歳代（50.0%）の順で多くなっています。「同報系防災行政無線（屋外スピーカー）」は、女性の50歳代（29.2%）、男性の60歳代（26.4%）の順で多くなっています。「広報車」は、男女ともにおおむね高い年代ほど多くなる傾向で、特に男女ともに70歳以上（男性：22.7%、女性：29.6%）で多くなっています。

図表7-3 川崎市の災害情報の入手手段（居住区別、上位8項目）



知っている手段を居住区別でみると、「緊急速報メール（NTTドコモの『エリアメール』、ソフトバンク及びauの『緊急速報メール』）」は、宮前区（57.4%）で多く、「同報系防災行政無線（屋外スピーカー）」は、麻生区（34.1%）で多くなっています。「市ホームページの『川崎市防災気象情報』（パソコン、携帯電話）」は、川崎区（30.4%）で多く、「広報車」は、多摩区（25.4%）で多くなっています。

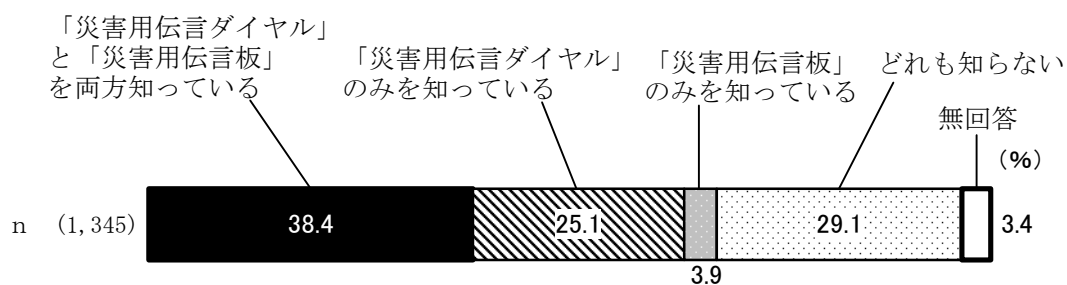
実際に情報を入手したことがある手段を居住区別でみると、「緊急速報メール（NTTドコモの『エリアメール』、ソフトバンク及びauの『緊急速報メール』）」は、宮前区（50.0%）で多く、「同報系防災行政無線（屋外スピーカー）」は、麻生区（25.0%）で多くなっています。「市ホームページの『川崎市防災気象情報』（パソコン、携帯電話）」は、中原区（19.4%）で多く、「広報車」は、多摩区（19.2%）で多くなっています。

## 7-2 「災害用伝言ダイヤル」と「災害用伝言板」の認知度

◎『災害用伝言ダイヤル』と『災害用伝言板』を両方知っている」が38.4%

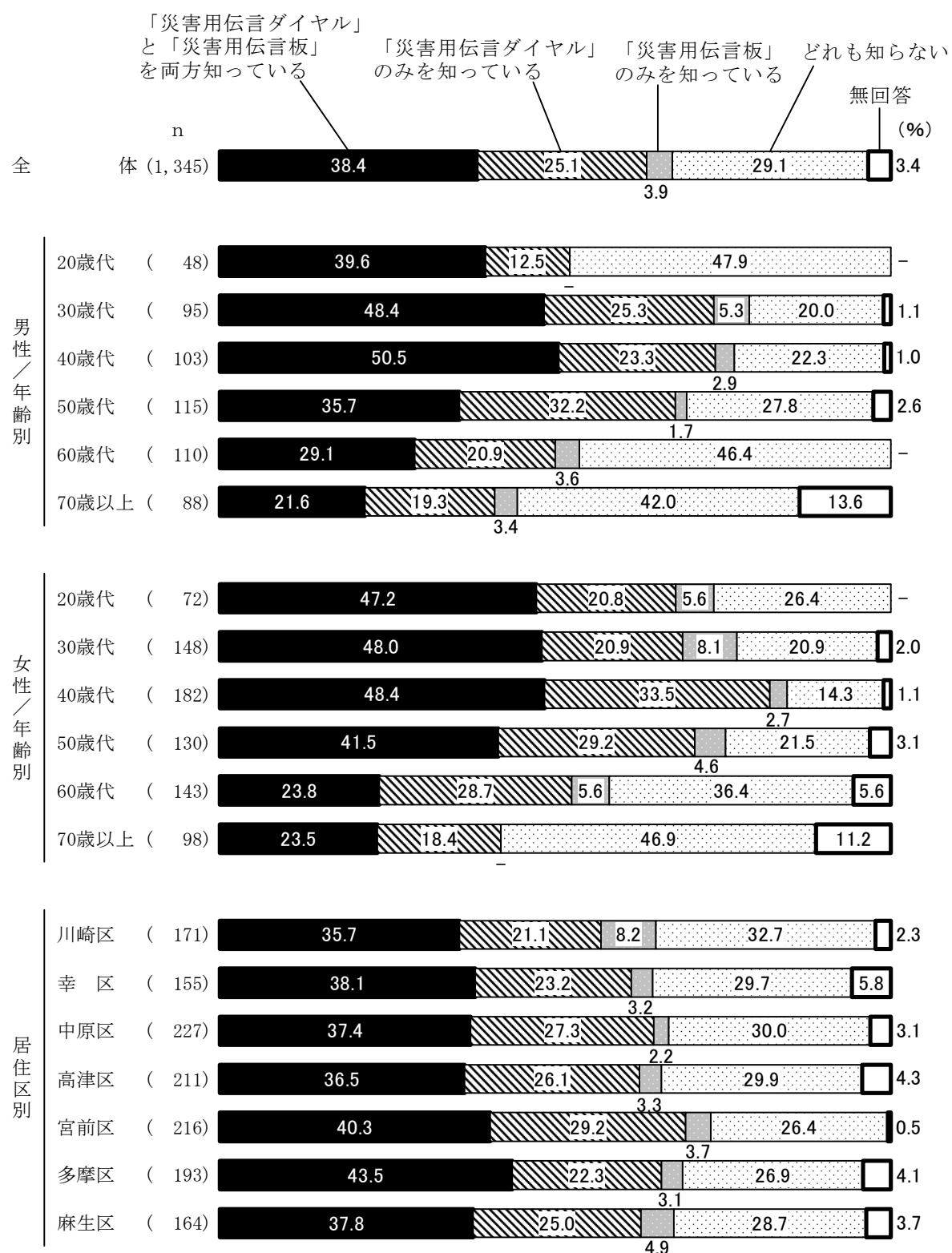
問19 あなたは、「災害用伝言ダイヤル」や「災害用伝言板」を知っていますか。(○は1つだけ)

図表7-4 「災害用伝言ダイヤル」と「災害用伝言板」の認知度



「災害用伝言ダイヤル」と「災害用伝言板」の認知度は、『災害用伝言ダイヤル』と『災害用伝言板』を両方知っている」(38.4%)が最も多くなっています。「『災害用伝言ダイヤル』のみを知っている」は25.1%、「『災害用伝言板』のみを知っている」は3.9%となっています。一方「どれも知らない」は29.1%となっています。

図表 7-5 「災害用伝言ダイヤル」と「災害用伝言板」の認知度（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、『災害用伝言ダイヤル』と『災害用伝言板』を両方知っている」は、男性の40歳代（50.5%）で多くなっています。一方「どれも知らない」は、男性の20歳代（47.9%）、60歳代（46.4%）、70歳以上（42.0%）、女性の70歳以上（46.9%）で4割台と多くなっています。

居住区別では、『災害用伝言ダイヤル』と『災害用伝言板』を両方知っている」は、多摩区（43.5%）、宮前区（40.3%）、幸区（38.1%）の順で多くなっています。

## 7-3 「災害用伝言ダイヤル」の体験利用

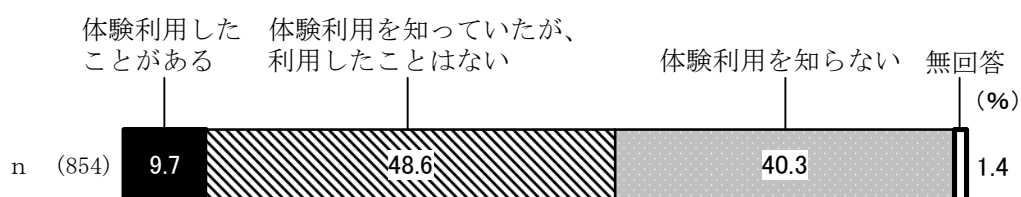
◎「体験利用を知っていたが、利用したことはない」が48.6%

「問19で、『災害用伝言ダイヤルを知っている』と回答した方にうかがいます。」

問19-1 あなたは、「災害用伝言ダイヤル」の体験利用をしたことがありますか。

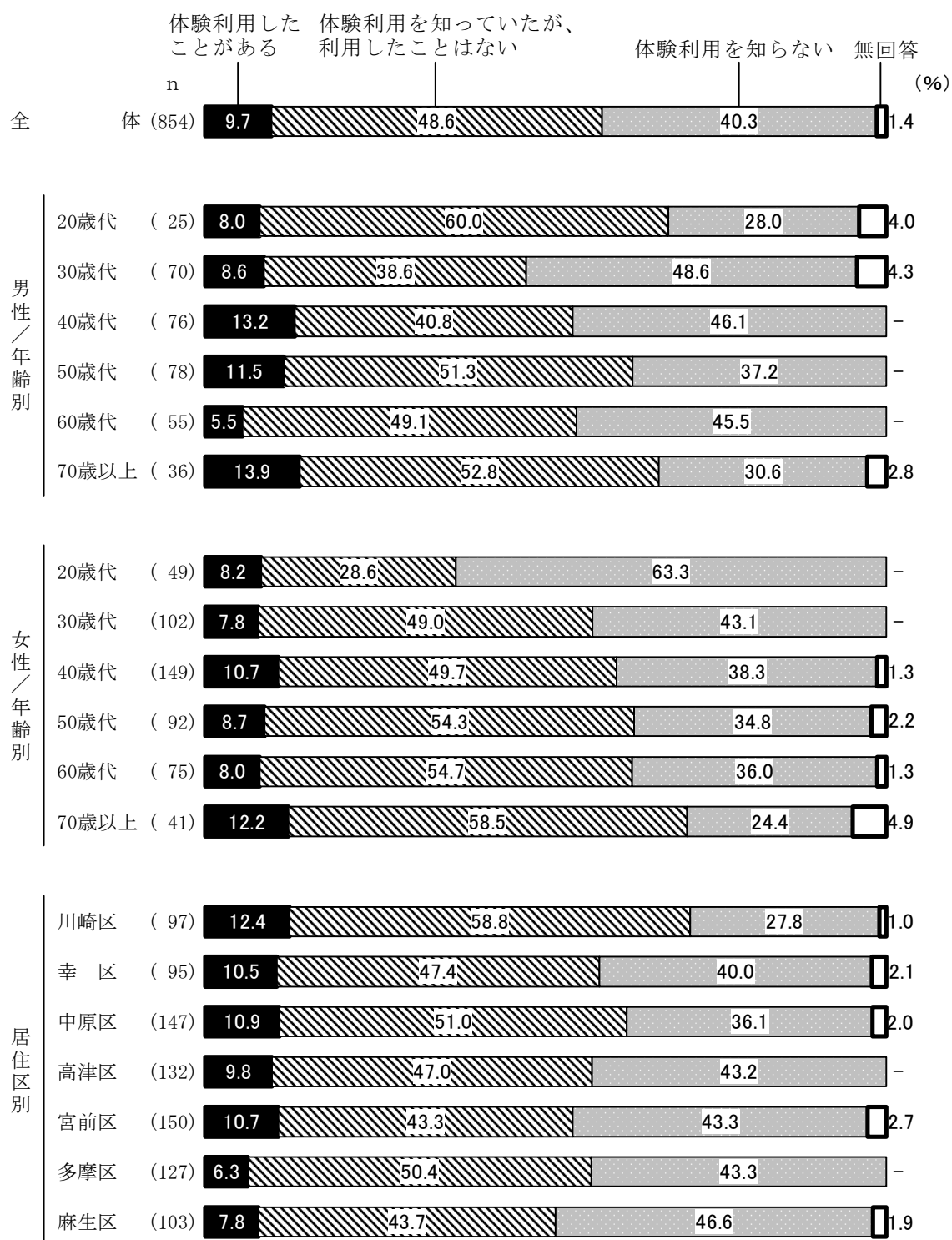
(○は1つだけ)

図表7-6 「災害用伝言ダイヤル」の体験利用



「災害用伝言ダイヤル」の体験利用は、「体験利用を知っていたが、利用したことはない」(48.6%)が最も多く、「体験利用したことがある」は9.7%となっています。一方「体験利用を知らない」は40.3%となっています。

図表7-7 「災害用伝言ダイヤル」の体験利用（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、「体験利用したことがある」は、男性の70歳以上（13.9%）、40歳代（13.2%）、女性の70歳以上（12.2%）の順で多くなっています。一方「体験利用を知らない」は、女性の20歳代（63.3%）で多くなっています。

居住区別では、「体験利用したことがある」は、川崎区（12.4%）で多くなっています。一方「体験利用を知らない」は、麻生区（46.6%）で多くなっています。

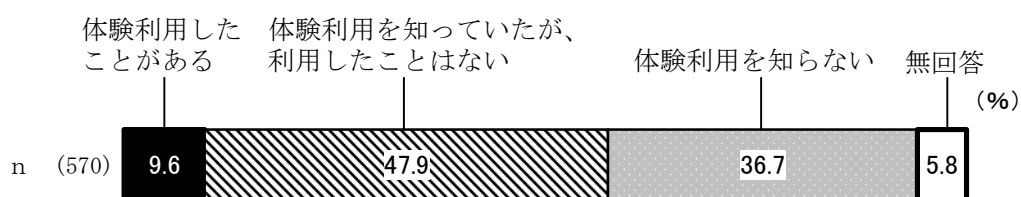
## 7-4 「災害用伝言板」の体験利用

◎「体験利用を知っていたが、利用したことはない」が47.9%

「問19で、『災害用伝言板を知っている』と回答した方にうかがいます。」  
問19-2 あなたは、「災害用伝言板」の体験利用をしたことがありますか。

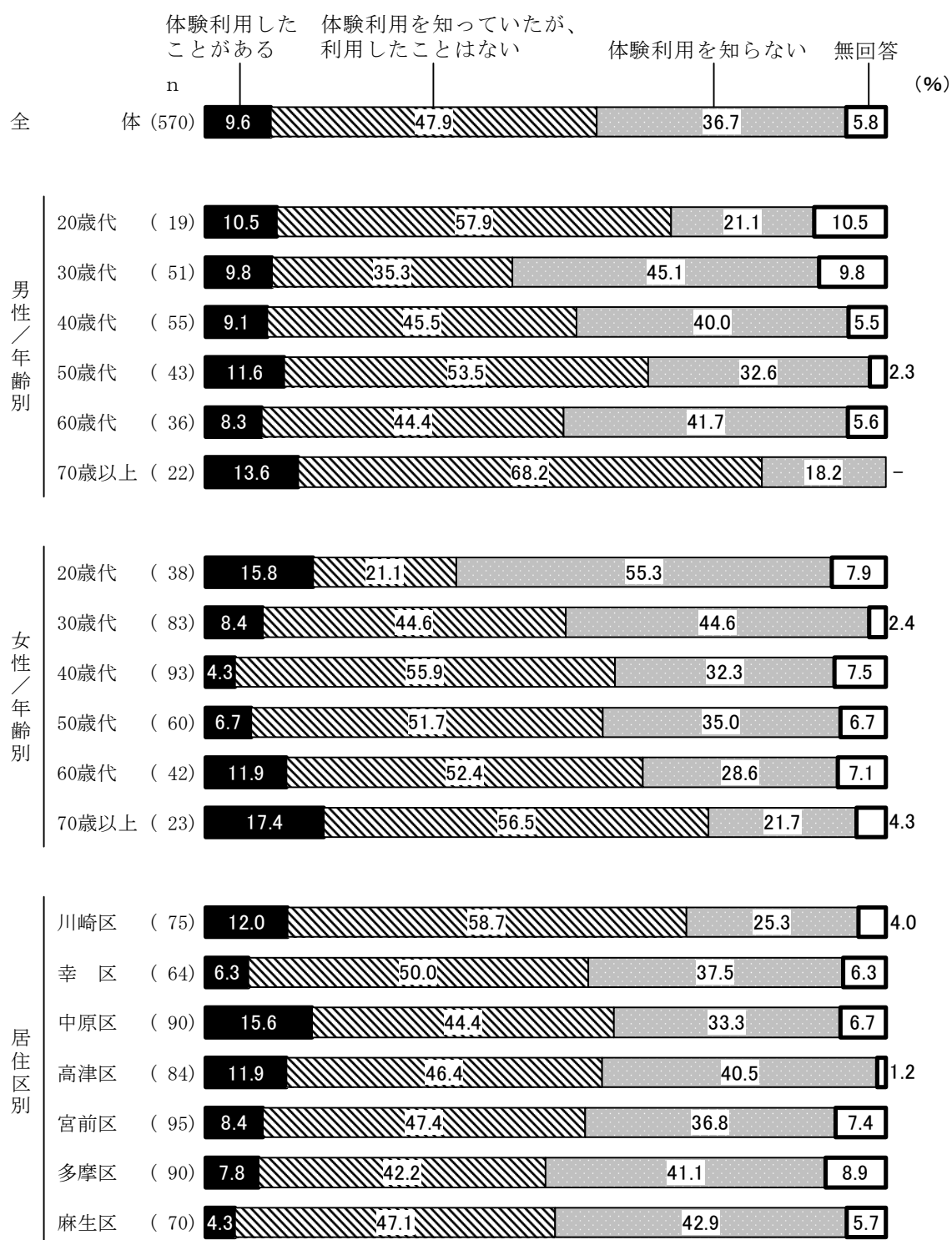
(○は1つだけ)

図表7-8 「災害用伝言板」の体験利用



「災害用伝言板」の体験利用は、「体験利用を知っていたが、利用したことはない」(47.9%)が最も多く、「体験利用したことがある」は9.6%となっています。一方「体験利用を知らない」は36.7%となっています。

図表7-9 「災害用伝言板」の体験利用（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、「体験利用したことがある」は、女性の70歳以上(17.4%)、20歳代(15.8%)、男性の70歳以上(13.6%)の順で多くなっています。一方「体験利用を知らない」は、女性の20歳代(55.3%)で多くなっています。

居住区別では、「体験利用したことがある」は、中原区(15.6%)、川崎区(12.0%)、高津区(11.9%)の順で多くなっています。一方「体験利用を知らない」は、麻生区(42.9%)で多くなっています。

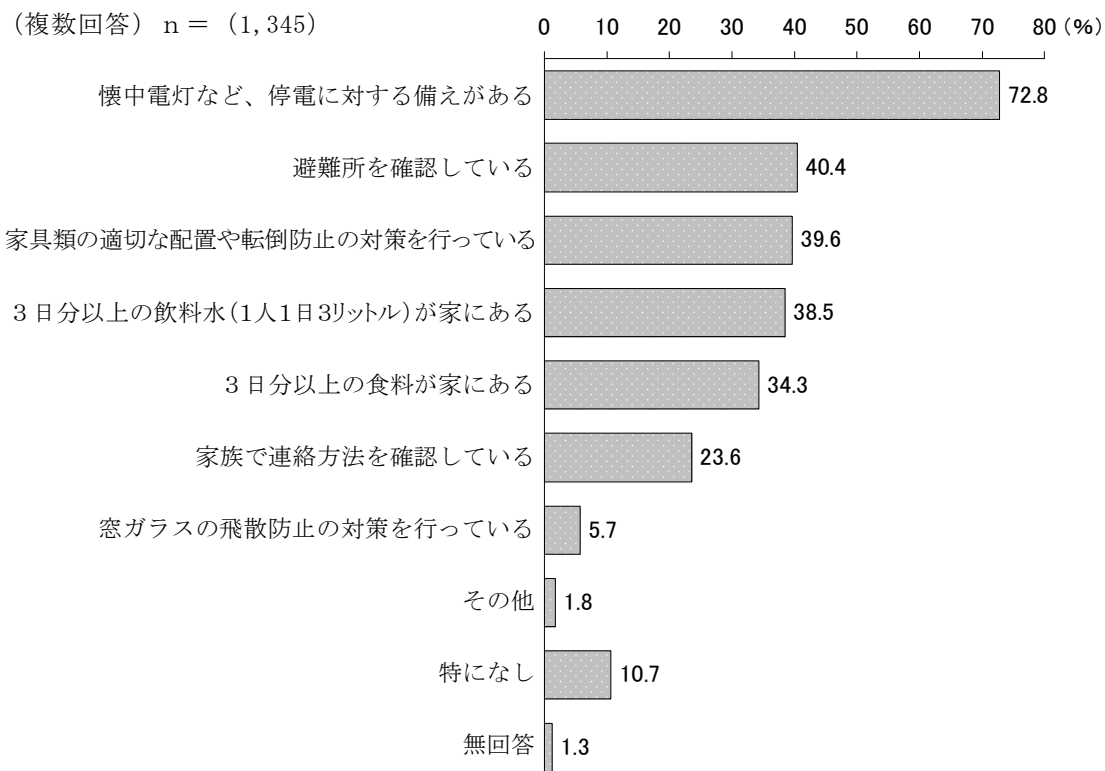
## 7-5 防災に関する家庭内での取組

### ◎「懐中電灯など、停電に対する備えがある」が72.8%

問20 現在、大規模な地震に対応するため、あなたの家庭内で行っている取組は何ですか。

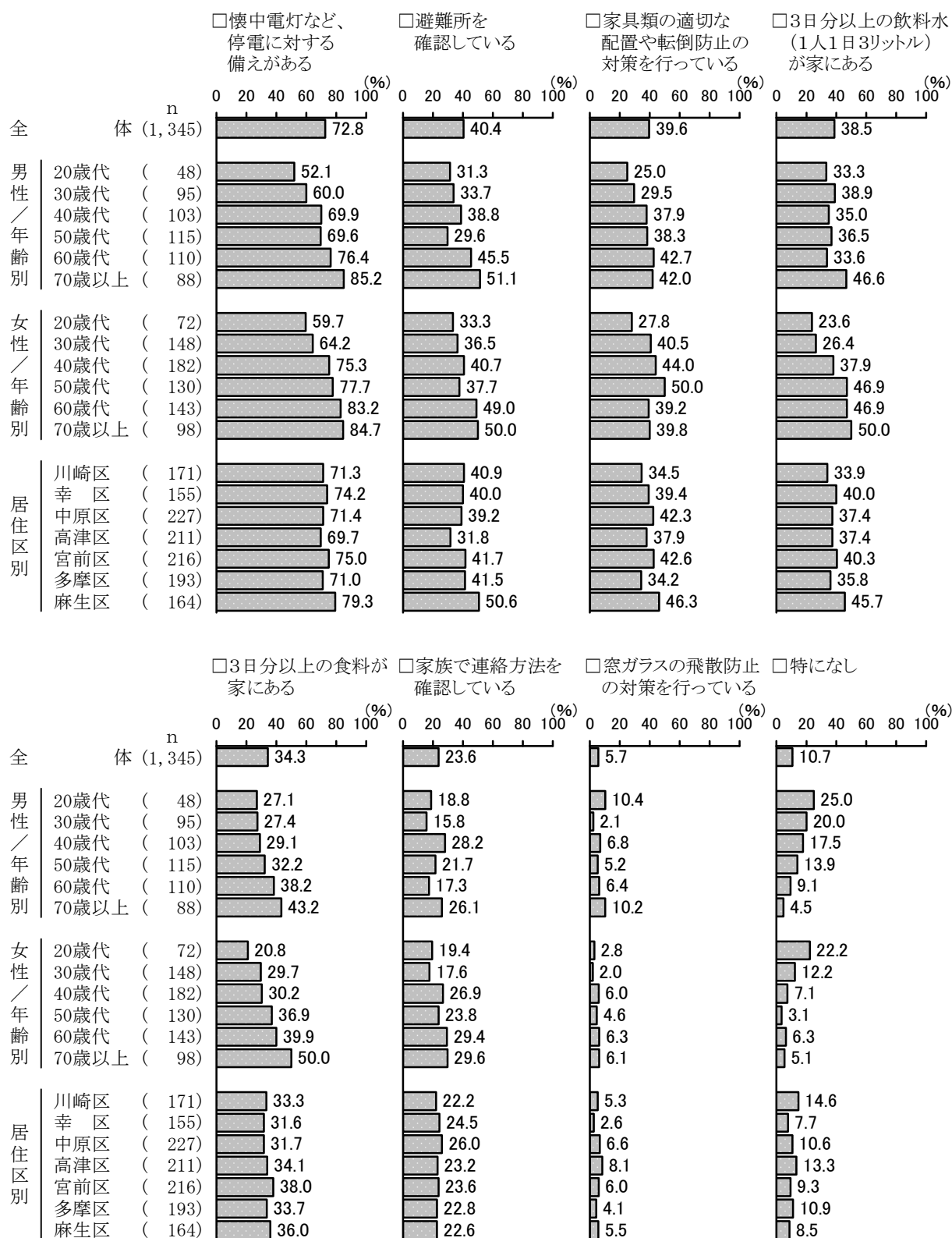
(あてはまるもの全てに○)

図表 7-10 防災に関する家庭内での取組



防災に関する家庭内での取組は、「懐中電灯など、停電に対する備えがある」(72.8%)が最も多く、次いで「避難所を確認している」(40.4%)、「家具類の適切な配置や転倒防止の対策を行っている」(39.6%)、「3日分以上の飲料水(1人1日3リットル)が家にある」(38.5%)、「3日分以上の食料が家にある」(34.3%)の順となっています。

図表7-11 防災に関する家庭内での取組（性／年齢別・居住区別、上位8項目）



性／年齢別では、「懐中電灯など、停電に対する備えがある」、「避難所を確認している」、「3日分以上の食料が家にある」は、男女ともにおおむね高い年代ほど多くなる傾向となっています。

居住区別では、「懐中電灯など、停電に対する備えがある」は、麻生区（79.3%）で多く、「避難所を確認している」でも、麻生区（50.6%）で多くなっています。

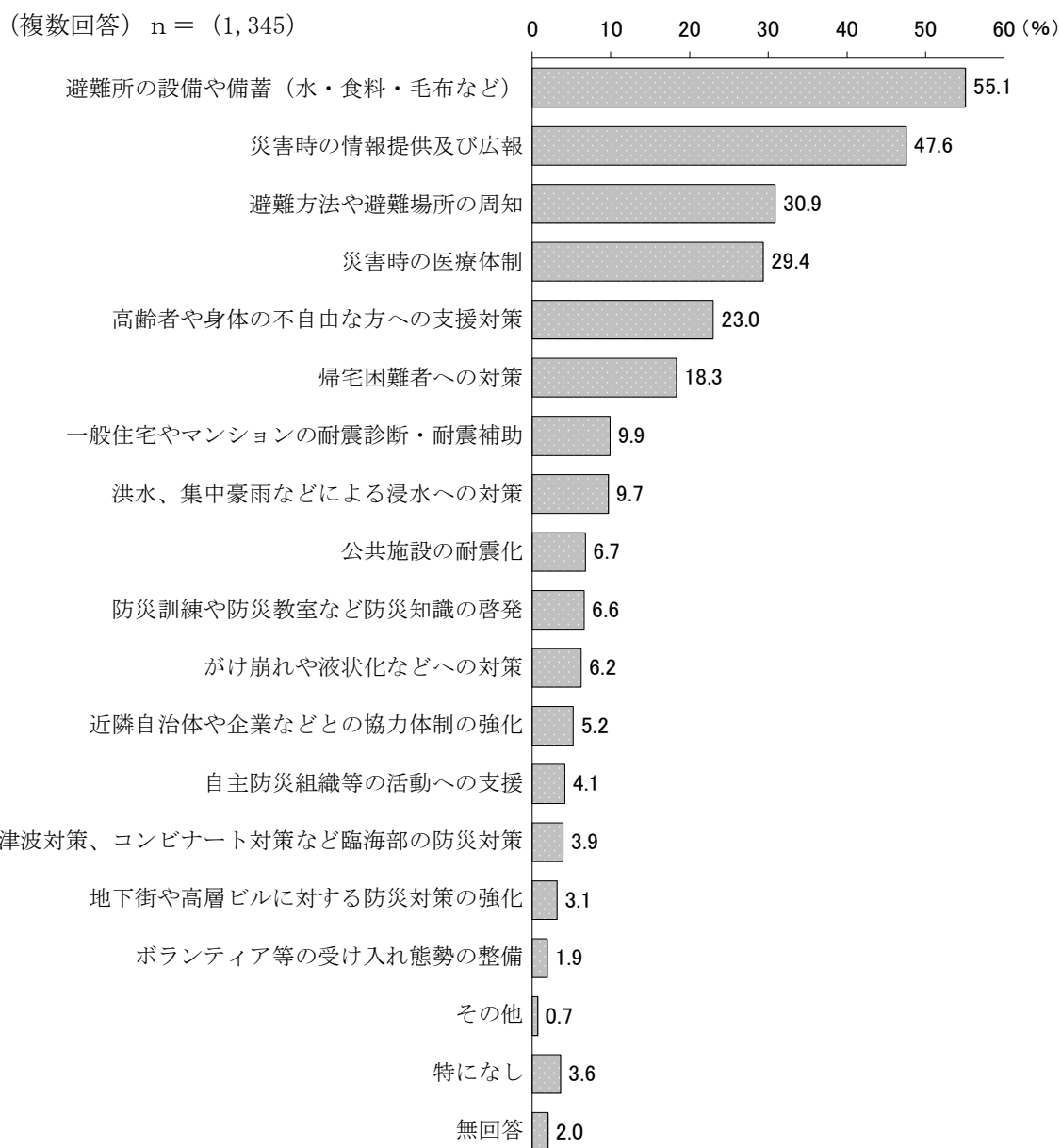
## 7-6 防災対策で行政に特に力を入れてもらいたいこと

### ◎「避難所の設備や備蓄（水・食料・毛布など）」が55.1%

問21 あなたが、防災対策について行政に特に力を入れてもらいたいことは何ですか。

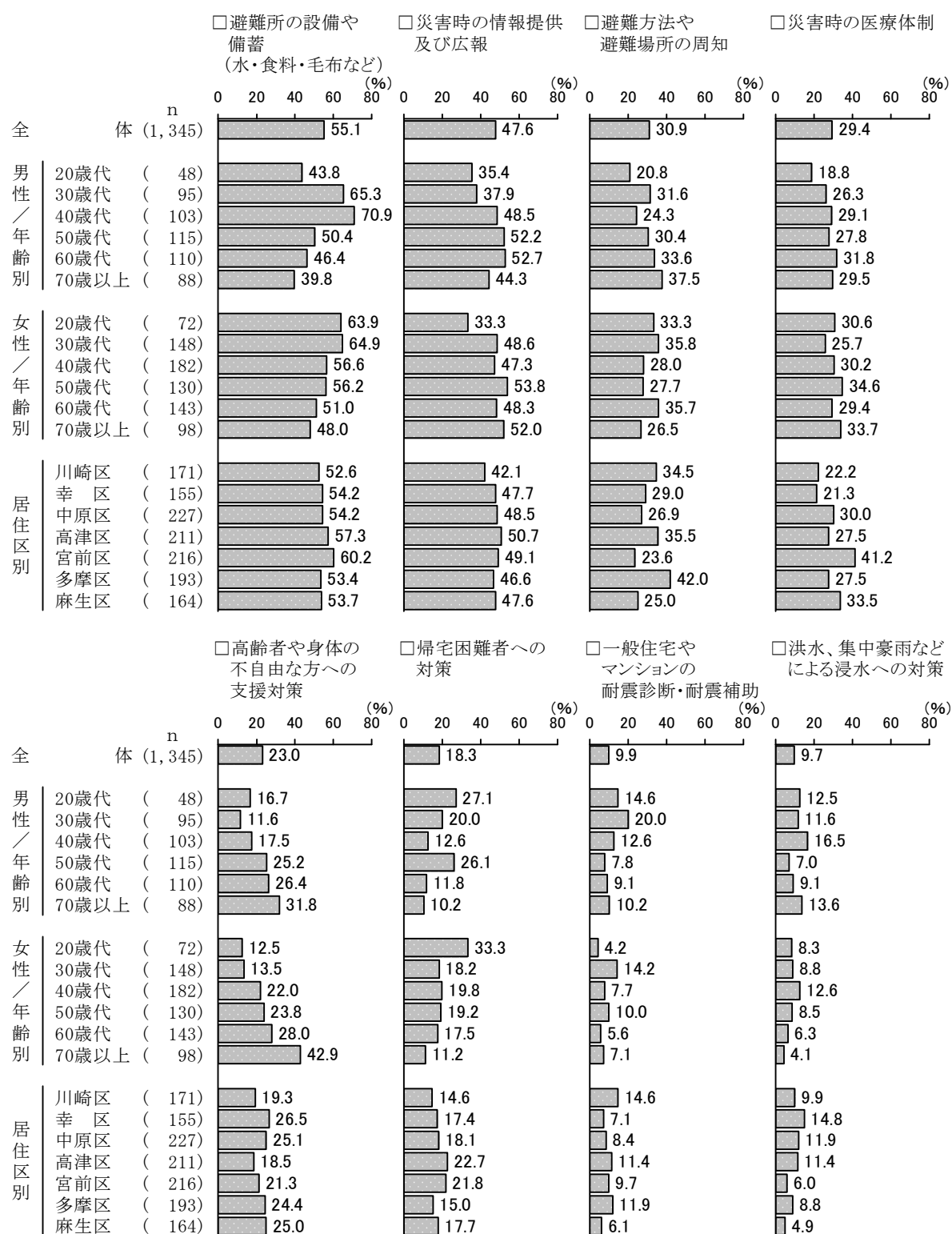
(あてはまるもの3つまでに○)

図表7-12 防災対策で行政に特に力を入れてもらいたいこと



防災対策で行政に特に力を入れてもらいたいことは、「避難所の設備や備蓄（水・食料・毛布など）」（55.1%）が最も多く、次いで「災害時の情報提供及び広報」（47.6%）、「避難方法や避難場所の周知」（30.9%）、「災害時の医療体制」（29.4%）、「高齢者や身体の不自由な方への支援対策」（23.0%）の順となっています。

図表7-13 防災対策で行政に特に力を入れてもらいたいこと（性／年齢別・居住区別、上位8項目）



性／年齢別では、「避難所の設備や備蓄（水・食料・毛布など）」は、男性の40歳代（70.9%）で多くなっています。「高齢者や身体の不自由な方への支援対策」は、女性の70歳以上（42.9%）で多く、「帰宅困難者への対策」は、女性の20歳代（33.3%）で多くなっています。

居住区別では、「避難所の設備や備蓄（水・食料・毛布など）」は、宮前区（60.2%）で多く、「避難方法や避難場所の周知」は、多摩区（42.0%）で多くなっています。